

北陸新幹線開業前後における北陸地域の周遊旅行動態に関する研究

金沢大学 学生会員 ○仕明 祐人 金沢大学 正会員 藤生 慎
金沢大学 フェロー 高山 純一 金沢大学 正会員 中山 晶一朗
国土交通省金沢河川国道事務所調査第二課長 非会員 北出 一雅

1. はじめに

2015 年 3 月 14 日の北陸新幹線金沢開業に伴い、首都圏をはじめとした他地域の交流人口が増加している今、人気の観光名所・観光資源が数多く存在する北陸地域の広域観光連携は交通分野が取り組むべき重要な分野の一つである。本研究では、北陸新幹線金沢開業前後で北陸地域を訪れる観光客の動態調査を行い、観光客の行動範囲の変化を明確にし、北陸地域における広域観光連携の可能性と課題を検討する基礎的検討を行った。

2. 既存研究の整理と本研究の位置づけの整理

北陸地域における観光振興の現状として鈴木ら¹⁾は次のように述べている。“北陸新幹線が開業し、より多くの観光客が金沢市を訪れることが著者らの既往調査により明らかになっている。既往調査の結果から首都圏在住者にとって金沢の魅力は高く、訪れたい観光地の評価で高評価を得ている。しかし、北陸新幹線開業や2015年4月期の朝の連続テレビ小説「まれ」の効果により金沢市を中心とした観光魅力度は一時的に向上するものの、2016年3月に北海道新幹線の開業を控えており、北陸新幹線の開業効果を持続することが可能であるか否かについては疑問が残る。”即ち、北陸新幹線金沢開業により増加した観光客の維持が北陸地域の観光振興促進には重要である。

本研究の新規性は、新幹線開業前後における観光行動の比較を行う点、及び観光動態・満足度の経月変化が通年でとらえることができる点である。

3. 新幹線開業前後の旅行動態アンケート調査

本調査は、北陸新幹線金沢開業前後における旅行者の旅行動態変化を明らかにすることを目的とし、アンケート調査を行うものである。調査対象は和倉温泉の宿泊をはじめとした七尾市内宿泊施設の宿泊

者であり、調査期間は北陸新幹線金沢開業3ヶ月前から17ヶ月間（2014年11月～2016年3月）である。これにより、北陸新幹線金沢開業前後において、交流人口の増加した地域や旅行者の利用交通機関の変化、宿泊日数の増減が明らかとなる。また、通年で調査を行うため旅行形態の季節性（季節変化）を明白にすることが可能である。

表1 調査概要

	開業前調査	開業後調査(詳細版)	開業後調査(簡易版)
調査期間	2014年11月 ～2015年3月	2015年4月 ～2016年3月	2015年4月 ～2016年3月
配布場所	和倉温泉宿泊宿、 七尾温泉宿泊宿	和倉温泉宿泊宿、 七尾温泉宿泊宿、 能登小牧台、 能登島	和倉温泉宿泊宿、 七尾温泉宿泊宿、 能登小牧台、 能登島
調査対象	旅館宿泊客	旅館宿泊客	旅館宿泊客
調査方法	手渡し配布、 後日郵送回収	手渡し配布、 後日郵送回収	手渡し配布、 後日郵送回収
調査項目	1.回答者の属性 2.旅行形態	1.回答者の属性 2.旅行形態 3.旅行満足度 4.ニーズ	1.回答者の属性 2.旅行形態
配布枚数	2000枚	5000枚	10000枚
回収率	63.30%	3.08%	-

続いて、2015 年 12 月までの集計結果について以下に示す。

利用交通手段についての回答集計結果を図 1 に示す。開業前は半数以上を占めていた「自宅からマイカー」利用が、開業後には、約 33%へと大きく減少した。また、レンタカーの利用が約 7%から約 16%へと約 2 倍に増加した。また、開業後において、新幹線の利用率は約 20%を占めている。

居住地別旅行日数（図 2）について、関東地域からの旅行者の滞在期間は長くなり、中部地域からの旅行者の滞在期間は短くなった。一方、関西地域からの旅行者の滞在期間は開業前後で大きな変化はなかった。

居住地別利用交通手段（図 3）について、開業後は関東地域からの旅行者の約半数、中部地域からの旅行者の約 1 割が新幹線を利用している。関西地域からの旅行者については、レンタカー利用がやや増加し、JR 利用がやや減少した。

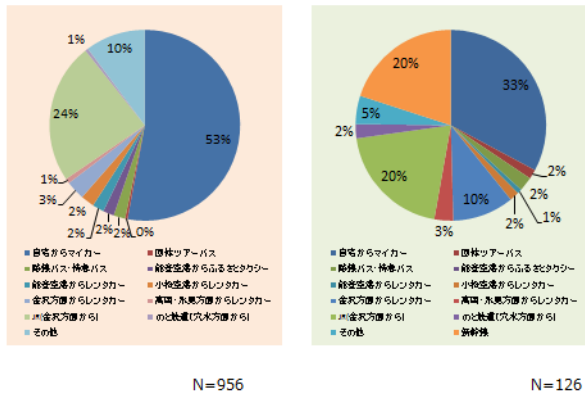


図1 利用交通手段(左：開業前，右：開業後)

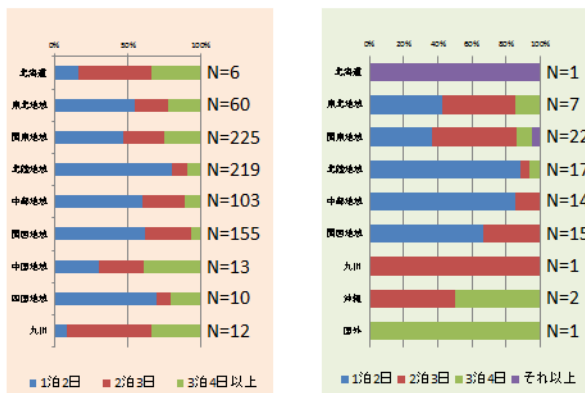


図2 居住地別旅行日数(左：開業前，右：開業後)

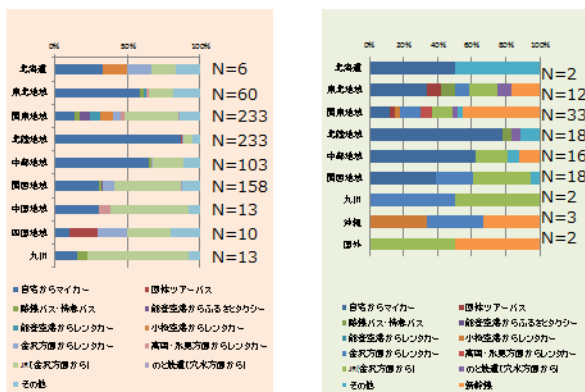


図3 居住地別交通手段(左：開業前，右：開業後)

4. 車両番号調査

本調査では、北陸新幹線金沢開業後に急増した自動車による旅行者の旅行行動態を明らかにすることを目的とし、複数箇所観測した大量の車両番号データを車両番号認識ソフトにより解析するものである。調査対象地域は能登半島全域であり、これにより能

登半島を出入りする大量の車両の周遊ルートを明白にすることが可能となる。

動画観測（車道を走行する車両の車両番号撮影）と静止画観測（観光地の併設駐車場に駐車されている車両の車両番号撮影）を行い、それらの車両・時刻・地点データと車両番号認識ソフトを用いて旅行者の周遊動態を分析した。

2015年10月24日7:00~19:00に撮影したデータを、認識ソフトを用いて、単純出力数を集計した。図5より、のと里山海道を利用して金沢方面へ訪れた2399台の車両の内、1198台程度が輪島から訪れたことが明らかとなった。

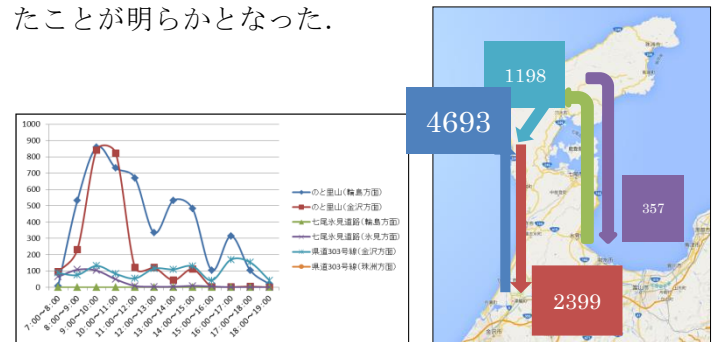


図5 車両認識単純出力数(左：経時変化，右：累計)

5. 結論と課題

本研究では、北陸新幹線の金沢開業により、観光客の行動形態がどのように変化するかを調査するため、開業前後の和倉温泉・七尾市内の入込客の行動形態を調査することにより、新幹線開業前後においてレンタカー利用者数や関東出身者の旅行日数の増加が明らかとなった。本アンケート調査は現在も実施中であり、今後もデータの積み上げを行う予定である。また、車両番号調査では、のと里山海道と氷見道路の利用の現状を明らかにした。分析対象データ量があまりにも膨大であるため、現在、統一分析方法を検討しており、今後は旅行者の詳細な周遊分析を行う予定である。

6. 参考文献

- 1) 鈴木大智，藤生慎，高山純一，中山晶一郎：「旅のつぶやき」を用いた観光地の満足度評価手法の構築，土木学会中部支部講演概要集，2015.4
- 2) 仕明祐人，藤生慎，高山純一，中山晶一郎：北陸新幹線開業前後における北陸地域の観光実態に関する研究，2015.11